

EPA メール本文：ディスプレイ基準 V6.0

性能強化ディスプレイの一般的なコントラスト比と輝度について（2011年12月13日）

====EPA メール概要和訳=====

ENERGY STAR ディスプレイパートナーおよび他の関係者各位：

- 米国 EPA は、現在 ENERGY STAR ディスプレイ基準バージョン 6.0 の第 3 草案を策定中である。
- 検討中の課題の一つに性能強化ディスプレイ（enhanced-performance display）の区分がある。
- EPA は、これら性能強化ディスプレイと主流製品を区別する特徴について分析を行っている。
- 具体的には、EPA は、ディスプレイ視野角の測定と検証に用いる方法について関係者から意見を受け取っており、その多くにおいて、VESA（Video Electronics Standard Association）のフラットパネルディスプレイ測定規格（FPDM）バージョン 2.0 が視野角を測定する方法として言及されていた。
- EPA のデータによると、標準的な TN 型ディスプレイ（twisted nematic display）の多くが、水平視野角 89°（最大 90° の場合）において 10:1 のコントラスト比を達成することができる。
- そのため、横電界駆動（IPS：in-plane switching）、垂直配向（VA：vertical alignment）、および他の類似する性能強化技術を有するディスプレイは、これらの極端な角度において 10:1 のコントラスト比を達成できると考えられる。

- EPA は、高性能ディスプレイとして販売されることがある性能強化ディスプレイが、水平および垂直視野角 89° において達成することができる**一般的なコントラスト比と輝度**について、関係者の意見を求めている。
- 意見はすべて **12月20日火曜日**までに displays@energystar.gov宛に提出すること。

- 質問等は、EPAのVerena Radulovic (Radulovic.Verena@epa.gov / (202) 343-9845) または、ICF InternationalのBizhan Zhumagali (BZhmagali@icfi.com / (202) 572-9448) まで。

=====